令和4年度 武生商工高等学校 学校評価書

項目	一个和4年度		
<u></u>	具体的取組(4年度) a) 授業の予習・復習や課題を取り組むことで学習習慣の確立を図る。 <目標> ・タブレット等の情報通信機器を自宅学習でも活用し、自宅学習課題に計画性を持って確実に取り組ませる。 ・家庭学習の指導についての満足度80%以上を目指す。		改善策・向上策 ○さらなる向上策として、Google Classroom等を活用し、 考査前、検定前の家庭学習がしやすくなるよう具体的な 課題設定に教科のバランスをとって継続的に取り組み、 日々の家庭学習につなげる必要がある。
1 教育課程 学習指導 教務部	b) わかりやすい授業を念頭に置き、主体的・対話 的で深い学びの授業実践を行い、生徒が自ら考 え課題解決を図る力を育成する。 <目標> ・わかりやすい授業についての満足度75%以上を 目指す。 ・自分の考えを持ち、協働(協力)した課題解決に ついての満足度70%以上を目指す。	○授業については生徒の88.6%がわかりやすいと回答した。話し合ったり、他者と協力したりする課題解決の活動を88.8%の生徒が行っていると回答した。こうした背景には、教職員がICT機器、グループワークを有効に活用し授業改善に努めたことがある。課題解決型の授業について教職員72.7%がなされていると回答した。	○授業公開週間などを利用して教科を超えた授業研究を行い、授業の工夫を個人レベルにとどめずに授業改善の取り組みを継続する。その際、「主体的な学び・評価」「対話的な学び」など統一テーマを設定し学校全体が共通の一歩を踏み出す土台とすることが有効と考える。
	c) 学校行事や地域(企業)連携、生徒の活躍に焦点をあて、本校の情報や魅力を発信する。 <目標> ・学校行事の様子や学習の成果等をホームページや学校新聞に掲載したり、学校紹介の動画を作成したりして情報を発信する。 ・ホームページや学校新聞による情報発信の回数年間70回	生徒の資格試験や部活動での活躍を多く伝達すること ができた。74.9%の保護者が必要な情報を得られている	
2 生徒指導生徒指導部	目指す。 ・交通安全重点指導週間を設けて、交通規則を遵守させ、交通マナーを身につけさせる。 b) 生徒会を中心に、生徒が自ら考え行動する態度を育成する。 <目標> ・登校時の挨拶運動、ボランティア活動など生徒会を中心とした積極的な活動を推進する。 ・自主的な行動により、校内の諸活動を活性化させる。	なども心がけ、生徒が気軽に相談できる環境の改善・拡充に努めた。 〇高校生としての規範意識を持ち、多くの生徒はおおむね落ち着いた学校生活を過ごしている。家庭との連絡を密にし、問題の早期発見・指導に努めている。 〇朝の登校指導を通して生徒の状況を把握し、基本的生活習慣の獲得を促した。生徒一人あたりの遅刻回数は1.07回と、昨年度より増加した。遅刻常連者の増加傾向がみられ、今後の指導の在り方について検討が必要である。 ○頭髪・服装検査の年間平均の合格率が82%と、目標に届くことはできなかったが、身だしなみも徐々に定着している。教員全体での一貫した指導を今後も継続していきたい。 ○定期的な交通安全指導を通し、交通マナーの習得を目指した。大きな事故もなく、今後も継続した取り組みを行いたい。 ○コロナ禍における学校祭等の在り方について、生徒から広く意見を集めて生徒会で検討を重ね、活発な活動が展開できた。今後は、さらに多くの生徒自身による自主的な活動場所の提供機会を増やすことが課題である。	○生徒の些細な変化を見逃さないよう教員間の情報共有をさらに進めるとともに即応性を高め、生徒が気軽に教員に相談できる環境を維持し、信頼関係の向上に努める。 ○継続した登校指導を通し、落ち着いた学校生活の維持に努める。また、基本的生活習慣の乱れに対して、生徒個々の実情に応じた指導を心がける。 ○頭髪服装検査については、数値目標設定と全教員一丸となっての身だしなみ指導を継続する。学校を取りまく環境の変化に対応し、常に柔軟な生徒指導の在り方を目指す。 ○集会や各クラスで交通安全意識の啓発を継続し、日常の登下校の様子について逐次評価し、生徒に伝える。
3 進路指導 進路指導部	教育活動を人生設計と結びつけて考えさせる。 <目標> ・進学補習、小論文指導、面接指導などの進路指導を充実させ、多方面から生徒の進路決定を支援し、進路情報提供に関する満足度90%以上を目指す。 b) 学校の実情にあった進路情報の提供、および大学入試改革など最新動向に対応した支援など、進路ガイダンス・進路説明会の充実を図り、より効果的な内容と情報提供方法(ホームページ等の利用)を検討する。 <目標> ・進路ガイダンスや職業講話、職場見学などの行	○工業キャンパスの1年生は職業講話や地元企業の職場見学などにより、2年生は職業講話、職場見学、インターンシップを行うことでキャリア教育を充実させることができた。また、各学年において進路ガイダンスを行うことにより、就職・進学希望者それぞれの進路意識も高めることができた。これにより、進路情報提供と進路行事に関する満足度において生徒は90%以上を達成することができた。○商業キャンパスの1年生では、職業ガイダンスを通して、多様な職業や地場産業を知り、働くことの意義を理解することができた。2年生では、職場見学や進路セミナー、インターンシップを通して仕事に対する心構えを備え、働くことの大切さを学んだ。将来の進路選択に主体的に取り組む態度を培うことができた。○商工高校全体として、担任などとの進路面談や相談を通して将来の進路選択について深く考え、就職や進学への進路意識を高めることができた。職業ガイダンスや進路セミナー、進路行事を通じて職業や各種上級学校の情報を得ることができ、職業理解につなげることができた。○ガイダンスやセミナーなどの進路指導活動を通して、多くの保護者に対して最新の進路情報を継続して提供していくことが課題である。	○1,2年生は、学年末に進路希望調査を実施する。各種のガイダンスやセミナーの内容をより効果的になるように企画し、希望調査をきっかっけに進路意識の向上に繋げる。 ○面接指導や小論文指導、進学補習と進路実現に向けて早期から対応できるよう進路希望調査を基に準備を進める。 ○次年度に向けて、各学年各学期に相応しいガイダンスやセミナーは何かを考え、内容を検討し実施する。 ○各学年会との連携を深め、情報の共有と適切な進路指導を確立していく。 ○保護者に来校頂いて進路情報を提供したり支援できる機会は限られている。最大限に活かすためにも各学年に応じた適切で最新の情報を蓄積し、情報提供していく。学校の情報はもちろん奨学金制度を利用した入試等最新の情報の提供を心掛ける。 ○情報機器を利用しての発信や収集等の進路活動を進める。
4 保健管理保健部	理・整頓に留意させる。 <目標> ・清掃指導の目標指数(指導できた割合)80%以 上を目指す。	生徒がほぼ毎日朝食を摂っていると回答している一方、両キャンパスとも10%を超える生徒が摂らないこともあると回答している。 〇工業キャンパスでは88%、商業キャンパスでは100%の教職員が清掃の指導ができていると回答している。その結果、生徒は真面目に清掃に取り組み、校舎も美しく保たれている。ただ、ゴミの分別方法を十分に理解しておらず、正しい分別ができない生徒もいる。 ○保健室・相談室での指導や対応に関しては、工業キャンパスでは95%の生徒、78%の保護者が満足している	○朝食を摂る習慣はほぼついていると思われるが、一部習慣化していない生徒も見られるので、欠食による心身への影響をLHや集会等で指導するとともに、家庭へも「保健だより」で周知するなど連携して進めていく。 ○両キャンパスとも、6校時終了後に生徒がすぐに清掃に取りかかることの指導を行い、ゴミステーションでは保健委員が中心となり分別についての具体的な指示を継続して行っていく。 ○個々の生徒の心身の健康状態について、普段から共通理解を図ることで、効果的な指導・対応が行えるように留意する。また、マスク着用、手洗いなど、学校におけるウィルス感染症予防のための基本的マナーを今後も継続して指導する。冬期の体調管理として、換気の指導や防寒対策に関する情報提供などを行っていく。
5 図書指導図書庶務部	a)図書室の環境を整備し、新着本の情宜・朝読書 の充実を通じて図書室利用の促進に努める。 〈目標〉 ・読書量:年間1冊以上読む生徒の割合で80%以 上を目指す。	○朝読書を通じて、読書に親しむ生徒が増えている。○新着図書の情宣を行い、利用者を増やしている。	○学校内では、読書の質、量とも増加していると実感できているが、家庭内ではまだまだである。保護者(家庭)との連携を考えていきたい。
6 保護者との 連携 図書庶務部	a)行事案内やPTA広報誌を活用し、行事への参加を増やす。 <目標> ・行事への参加者を、各クラスから複数名出るように配慮する。	○案内や広報誌の発行は、コロナ禍でもうまくできた。今 後も活発な情報発信をしていきたい。	○案内や広報誌が保護者に確実に届くように考えていき たい。必要とあれば緊急メールを利用したい。

令和4年度 武生商工高等学校 学校評価書

項目	具体的取組(4年度)	成果と課題	改善策・向上策		
7 その他 (工業科)	けさせる。 <目標> ・課題研究では、地域の企業や大学、官公庁と連携しながら地域貢献を推進する。課題研究の発表を通してプレゼンテーション能力の向上を目指す。 b) 福井フューチャーマイスター制度を活用し、資格取得に挑戦する意欲を高め、合格者の増加を目指す。 <目標>	○実験・実習の決まりや手法を守り、安全な作業や服装、整理整頓、清掃、機械や工具等の点検を意識しながら取り組んでいる生徒がほぼ100%であった。 ○現場見学・工場見学を適宜開催し、実際に現場で使われている技術を体験した。 ○地域の企業などと連携しながら課題研究発表会に取り組み、地域貢献を推進することができた。1、2年生は課題研究発表会に参加することにより、取り組む姿勢を学ぶことができた。 ○ほとんどの生徒が福井フューチャーマイスターの認定を受けた。丙種危険物取扱者資格では69%、全国工業校長会主催の計算技術検定3級では76%と目標の60%を大きく上回った。 ○商エデパートへの参加や実習体験を通じて商業キャンパスとの交流を深めた。	者として必要な知識や技術・技能を積極的に身につけさせる。 ○工業学科共通で受験する基本となる資格においては合格者が増えるよう、タブレットやICT機器を活用し生徒の学習状況を把握しながら取り組み方法を工夫する。各学科で将来、必要あるいは有用な資格の精選を進め、取り組み方について検討する。 ○引き続き商工デパートや実習体験などを通じて商業		
8 その他 (商業科)	ごとの丁寧な到達度の確認とフォローにより、各商	なり、放課後の直前指導が十分できなかったが、A・Bを合わせ80%を超えた生徒のアンケート結果は、生徒の努力と結果に対する満足度だと考える。	催と工業キャンパスとの密接な協力関係を構築しながら 準備に取り組んでいく。企業とのオリジナル商品の開発		